

「箱根市構想」

TOMIOファーム代表 古屋富雄様



本日は、地域を牽引するロータリークラブの例会にお招き頂き有難うございます。

私は、市役所勤務時代に“花による地域興し”を懸命に行っていました。それぞれの首長さん方から

ご協力頂き、専門部署も作って頂くなど自由闊達に公務員として職務を務めさせて頂きました。その当時から常々思っていたことは、皆様と同じように“自分だけ良ければ…”ではなく、自分の仕事・生き方を通して地域に色々なものを還元できないかということで、役所を辞めてからそれを形にしたいと思いました。

今はTOMIOファームとユートピア農園を営んでいます。あと3年以内に畑と隣接している所に、農水省と協力して農家レストランや会員制市民農園等々を開設して、私達だけでなく地域全体で携わるような形にしたいと思っています。全てのものを自分達の中で賄うのではなく、それぞれ特色ある地域の事業所等から食材や製品を購入して経営するという構想で準備を進めています。土地（約1万m²）の買収は終わって、農水省と具現化に向けて会社を設立しようとしています。

それとは別に、“兼農サラリーマンの力”ということで、農家以外の方が農業ができる仕組みを、私が全国で初めて提案して作り、いま衆議院議員の方々と法律化を目指しています。今年の12月には、事業者にも農業に携わってもらいたいということで、『兼農カンパニーの勧め』という本を出版する予定です。

本日は、テーマになっている“箱根市構想”について、お手元の資料を追いながらお話をさせて頂きます。

まず、“箱根市構想”に小田原は入らないと思います。小田原は、これからも“小田原市”として全国に発信していくべきだと思います。私が年に50回程行っている講演で感じたことは、南足柄市のイメージが“山や熊”位ということです。漠然と、この地域が“箱根”になれば良いと思っていましたが、それを口にする人が増えて機運が高まってきていると思います。海外で通用する名前として、東京・成田・箱根・京都はかなり有名です。

そこで、文献等で箱根と南足柄の歴史的背景を調べました。すると、明治22年3月までは仙石原は足柄上郡に属していて、その年の4月の町村制の施行により仙石原村となり足柄下郡になったことが分かりました。ただ、生活・経済・文化圏が変わることはありませんでした。

当時、良質な肥料を作るのに必要な硫黄を採取するために箱根（大湧谷）へ往来したり、牛や馬の飼料のカイバを採りに行ったりと、二本足で歩ける獣道のような所を、馬を引き、必死で明神ヶ岳を越えて行きました。その事が分かったのは、つい最近のことです。

また、1728（享保13）年、徳川吉宗や大岡越前が活躍した時代、箱根（仙石原や宮城野）には鉾山があり、銅の採掘の人工（働き手）として、足柄地域の多くの人々が明神ヶ岳を越えて行きました。また飢饉が発生した時に、箱根の人々は、豊かな足柄地域に逆方向から明神ヶ岳を越えて来ました。しかし、この地に居付くことはなく、箱根へと戻りました。それは、足柄と行き来ができる距離であったと言えるからです。現在も、足柄平野と箱根に親戚・縁者が多く残っているようです。また、大正天皇の即位の際には“お囃子”がなかった箱根に、南足柄の3名の方が“お囃子”の指導に行き、「箱根宮城野ばやし」が誕生しました。

車社会になる昭和30年代前半までは、生活・経済・文化圏が全く同じでした。そういう経緯から、南足柄・大井町・開成町・松田町・山北町の1市4町で、先ず一つの自治体になる環境を整え“東箱根市”となり、“箱根町”と“東箱根市”が「箱根市」に移行したいという機運が高まった時に、合併して「箱根市」にしようという二段構えの構想です。

「花紀行」を行ったとき、沢山の方が来られました。しかし花を見るのは一時で、次にお土産や食べ物を探します。“花より団子”です。“伊勢の「赤福」”にも負けたくないような構想で色々と作りましたが、売れませんでした。これが、“箱根の「〇〇」”だったら必ず売れたと思います。地域ブランドづくりは、やはり地名力を活かして進めるべきだと思います。“箱根市”構想が、一段と湧いてきましたし、その構想を知った多くの方々からもエールも送って頂きました。次代を担う若い世代が広い世界で活躍するためにも、地名力を使った「箱根市構想」を是非実現したいと思いました。

地名力を使ったブランドづくりの一例をご紹介します。南足柄市で和風の仕出し料理を作って販売している加藤準一さんから、オリーブを栽培して販売したいという相談がありました。名前をどうしたらよいのかということで、「鎌倉野菜」の話から、「東箱根オリーブ」に落ち着きました。

また郷土史家の内田清さんも、この構想を聞いて快く賛成して下さり、よき理解者となって頂きました。頭を柔軟に変えて頂ければ、“箱根市”構想というのはスムーズにできるのかと思いました。

先ほど言ったように、小田原市は歴史に育まれた地名力を使って、世界に打って出る勢いがあると思います。

私はこれから、形あるものにしまして、“利他の心”を持って社会に還元できるような生き方をしたいと思っていますので、どうぞ皆様、ご支援ご協力をお願いしたいと思います。